

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における日明小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を平成27年4月21日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の日明小の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

調査の内容は、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを問う「国語A」・「算数A」、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力などを問う「国語B」・「算数B」、そして3年に1度実施される「理科」の5つに分かれています。

本年度の日明小学校の6年生の結果は、「国語A」「国語B」「算数A」の3つは、全国平均正答率を上回っていますが、「算数B」「理科」の2つは、下回ってしまいました。そこで、本号では、今後の6年生、また日明小学校の5年生以下の学力向上につなげていけるように、結果を分析し、今後の取組について記述します。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

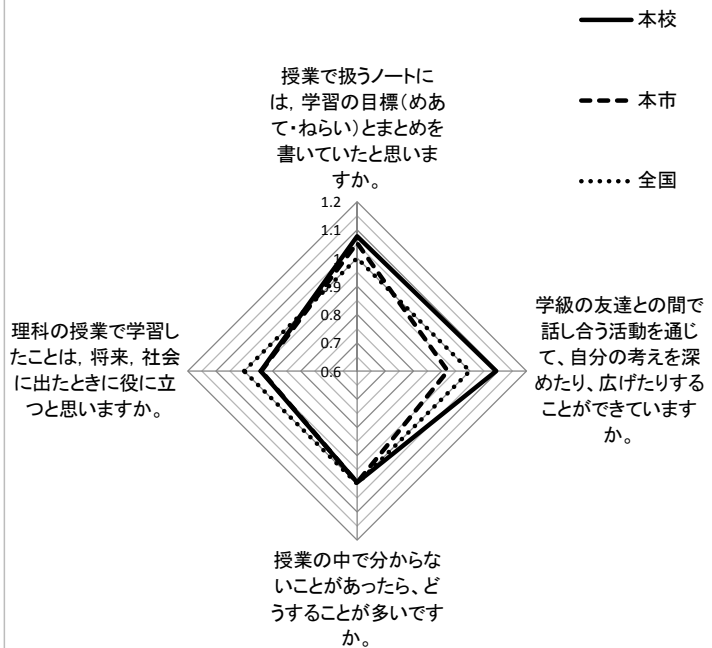
1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

教科	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を上回っていた。特に話す・聞く能力を問う問題では、正答率が高かった。 読む能力を問う問題が全国平均正答率をやや下回っており、読解力をつける必要がある。 	全国平均正答率との比較 上回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を上回っていた。特に表現の工夫について説明する問題や要旨を捉える問題など書く力を問う問題についての正答率が高かった。声に出して読むときの工夫とその理由を書く問題が、全国平均正答率を下回っており、音読等の活動を多く取り入れる必要がある。 	全国平均正答率との比較 上回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率をやや下回っていた。特に数量関係を問う問題の正答率が低かった。 小数の大きさの表し方や小数の加法の計算の確かめ方を理解させる必要がある。 グラフに表されている事柄を読みとる力を高める必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均を上回っていた。数量や図形の知識理解が高くなり応用できるようになった。あとは、分割された2つの図形の図形の面積が等しくなる理由を書く問題等、理由を説明する活動を多く取り入れる必要がある。 	全国平均正答率との比較 上回っている
理科	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率をやや下回っていた。 観察・実験の基本的知識や技能を身に付ける必要がある。特に、実験器具等の使い方を熟知する必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

- 5年生までに受けた授業で使うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたという児童が全国平均よりも高かった。これは、全職員が授業の中で目的意識を持って取り組み、授業改善を実践した成果であるといえる。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」と答えた児童の割合が高い。これは、普段の授業の中で、お互いの考えを出し合い質の高い授業が行われていることを表している。
- 「授業の中で分からないことがあったらどうしますか」の問いに「その場ですぐに先生に尋ねる。」または、「授業が終わってから先生に尋ねに行く。」と答えた児童の割合が全国平均より多かった。児童にわからないことはそのままにせず解決しようとする態度が育っていると見える。
- 理科の授業で学習したことが将来社会に出たときに役に立つと思うと答えた児童が全国平均よりも少なかった。理科の授業で観察や実験を行いそうなるわけや理由を考えさせ、理科の面白さを伝えていくようにしなければならない。

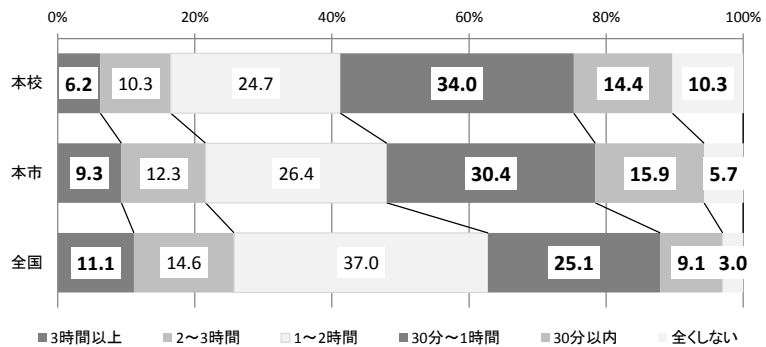


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・本校の児童は、学校の宿題はきちんとしている。しかし、家庭学習を1時間以上している児童は、40パーセントほどしかない。6年生の家庭学習時間のめやす60分以上を目標に指導する必要がある。各学年における家庭学習の時間のめやすを示したり、宿題以外の家庭学習の具体的な取組方を指導したりする必要がある。

・家で自分で計画を立てて学習している児童は、全国平均よりかなり少ない。今後、家庭学習の取組の例を示すなどして、家庭の協力が得られるように呼びかけていく必要がある。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・自分にはよいところがあると思う児童の割合が全国平均よりかなり高い。これは、家庭や学校で様々な体験を積み重ねながら成就感を味わい認められているからと考えられる。また、各担任が日々の子どもの様子を学級通信や保護者との面談によって伝えることで褒められる機会が多くなっているからと考えられる。

・将来の夢や目標をもっている児童の割合が高い。夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けていく必要がある。

・1日当たりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間が長い。家庭での時間の使い方を見直させる必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学力向上のための特設時間を実施する。
 - ・ 日明国語タイムと日明算数タイムを水曜日と金曜日の朝自習の時間(15分間)に設定し、全校一斉に実施する。
 - ・ 小中連携サポーターの先生が6年生の算数科の授業の活動補助を行い、理解に時間のかかる児童の学習の手助けをする。
- 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークを活用する。
 - ・ 学力をつける良い問題やワークを見つけたり作成したりして、学年で取り組むようにする。
- 書くことの習慣化をはかる。
 - ・ 学習のめあて、まとめをすばやく書けるようにする。
 - ・ 学習の終わりに「振り返りタイム」として今日の学習で分かった事や感想等を書く活動を積極的に取り入れる。
 - ・ 学年に応じて体験したことや自分の思いや考えを書く活動を取り入れる。
- 習熟度別の少人数編成による授業をより効果が上がるように実践する。
- 学習規律や学習指導方法を共通理解し、日明小スタンダードを作成し、授業改善に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化をはかる。
 - ・ 家庭学習時間を設定する。(低学年・・・20分、中学年・・・40分、高学年・・・60分程度)
 - ・ 学年に応じて自主学習ノートの活用をする。(書き方使い方の具体例を知らせる。)
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、月に一度程度、担任と保護者が確認することで意欲の持続を図る。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組を保護者へ知らせる。
 - ・ 学校だよりや学年だより等で知らせる。
- 保護者に「ケータイ夜10時電源OFF運動」や「家庭での時間の使い方」についてPTAと協力して、会合や学校だより等で呼びかける。